

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193700010		
法人名	社会福祉法人 幸清会		
事業所名	グループホームぬく杜の郷・しおさい せせらぎユニット		
所在地	北海道虻田郡豊浦町字浜町17-3		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0193700010-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193700010-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 2 年 12 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人理念の実現に向けて一人一人の職員がスキルアップに努め連携を図っています。人材育成・地域貢献・啓発活動に力を入れ「認知症ケア」の地域拠点となるべく関係機関及び近隣住民・ボランティアの方との連携を深めています。  
 ・法人全体にて昨今のコロナ感染予防に努めています。事業所においても、ご家族の面会について制限や工夫・会議研修のオンライン化・飛沫感染予防対策・給付金の活用等、様々な対応を行い感染の予防に努めています。又地域医療との連携も密に図り、入居者の方の健康管理を図っています。  
 ・面会制限期間が長期化することに伴い、ご家族へこまめな連絡を行い、入居者の方の身体状況やご要望について連携をより一層深め信頼関係の構築に努め、安心してご利用いただけるよう職員一同連携を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目: 23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やユニットに掲示し、ユニット会議の中で理念の唱和を行っています。又、職員は理念カードを携帯いつでも理念を確認できる状況にある。常に理念を念頭に置きながら日々ケアにあたっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防対策のため地域との交流は控えてますが、子ども会の廃品回収への協力など行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナウイルス感染予防対策のため中止していますが、毎年豊浦中学生・シュタイナー学園の実習受け入れや講座を行っています。毎週土曜日に認知症カフェを開催し専門職が認知症を理解して頂けるよう取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動状況や事業内容を報告し、情報や意見交換を行うことで施設サービス向上に努めています。又、議事録は法人ホームページや玄関へ掲示しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等、行き来すると共に利用者の入居状況など報告し情報交換を行い協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に、全職員が身体拘束廃止、高齢者虐待防止の事業所内研修会に参加しています。又、ユニット会議の中で話し合いの場を持ち身体拘束のないケアに取り組んでいます。法人行動規範委員より虐待の芽チェック表を年2回行い不適切なケアが行われていないか確認を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が身体拘束廃止・高齢者虐待の事業所内研修に参加しています。虐待の種類についてまとめられた携帯用の書面を配布している。又、会議の中でも不適切なケアについて話し合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び一部職員は外部研修にて地域権利擁護事業について学び、また職員にもその内容の周知も行っている。また玄関及びユニットにパンフレットを備え、いつでも必要な方に活用できる体勢を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の当日には、予め時間がかかる事を伝え、十分に説明する時間を設け、ゆったりとした雰囲気不安・疑問点を訴えやすいように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフ全員が、利用者の意見等が無いかを観察し問題点を解決できるようにしている。運営推進会議にご家族にも参加して頂き意見等を確認しています。又、玄関に苦情・相談用の箱を設置し、ご家族の要望が出やすいように働きかけています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で職員の意見等を確認しています。勤務表の作成・必要物品の購入など職員の意見を聞き、運営に反映されるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適性や資格等を見極めた上で、能力向上のための課題提起などを行い、努力の評価を一緒におこなったり、資格取得のための支援などを行っている。又、給与規程に定められた職位・職責により、給料体系が定められています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で独自の研修制度を設け、対象を勤務年数別、職種別に定めている。今年度はコロナウイルス感染予防対策のため、zoom研修を実施。新人職員へはOJTを活用し育成を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年度はコロナウイルス感染予防対策のため相互評価は実施していないが、毎年相互評価、研修会へ参加し同業者同士の繋がりを大切にし、情報交換を行っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問し、情報を集め居室内の家具の配置等にも配慮しています。ご家族やご本人に見学に来て頂き、ホームの生活の様子を見ていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用までは必ず本人と家族の見学を勧め、ホームとしてできること、できないことの説明や入居後の費用等必ず説明した上で、申し込みの判断を求めている。入居検討時、及び契約時に説明を行い、了承を得ています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内で特別養護老人ホーム、老人保健施設を運営しており、管理者が他のサービスについても役割・内容を把握しているため、必要な支援を見極めて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ・入居者がお互いに支え合う関係を築き、アセスメントを再確認しながら、家事等を一緒に行い生きがいを持って過ごして頂けるよう、取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が抱えている利用者に対する思いも受け止めながら、ケアの考え方を共有したり、入居者の生活暦を聞き、家族にも助けてもらいながら利用者を支えるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防対策のため、今年度は地域の美容室に来ていただいている。町外からも多くの利用者が入居されているのが現状で、地域資源を利用したなじみの関係の継続は難しいという部分もあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとりひとり、個々の時間を大切にしながらも、料理などの家事作業やお茶の時間を共有し、社会的に孤立をしないようにスタッフが間に入り利用者同士コミュニケーションを図りやすい環境を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後[退居]にも、実際にスタッフが入院先へお見舞いに行ったり、関係が途切れないよう支援に努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとりひとりについて、本人の意向を考慮しながらよりよい暮らしをする事ができる様に援助している。居室訪問時には、希望や要望が無いかな聞き取りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、関係サービス提供機関(居宅介護支援事業所等)やご家族から生活歴など、必要な情報を収集した上でアセスメントを行い、サービス提供に生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人一人が入居者個々の身体状況・気持を観察、アセスメントをしながら、ケース記録や引継ぎなどにより、情報を共有するように努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議を開催し、計画作成担当者、担当スタッフを中心として、ご本人、ご家族の介護に対する意向を十分に考慮した上で計画の作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供しているケアや、利用者の日々の様子について、ケース記録・カンファレンスなどで一日の流れについて把握し、申送り帳等で情報の共有を行い、介護計画を更新する上で生かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の配置等にも考慮しながら事業所の持つ様々な機能(認知症カフェの利用)を生かし、慰問を受け入れたり、地域行事に参加したり支援を行っています。今年度は認知症カフェや地域行事には参加出来ていません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等では消防署の協力を仰ぎ、避難・消火訓練の実施など協力を頂いている。地域の方に慰問をお願いし地域のボランティアに協力を仰いでいますが、今年度はコロナウイルス感染予防対策のため控えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今後の長い生活を考慮し、利用者には協力医療機関へ切替を勧めている。ただしこれまでの関係が深い利用者には、家族の支援も含めて継続して通院をしていただいています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護職員も1名確保し、専門的な立場・知識を活かしながら日常の健康管理や地域医療機関との連携を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院した際には、早期より病院のケースワーカーと連絡をとり、必要な治療が終わり次第、ホームに戻る事が出来る様、情報交換を密に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、看護職員、協力医療機関と指針をまとめている。スタッフの知識不足がみられる為、研修に参加し知識・技術の向上に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや緊急連絡網を置き、救急救命講習を全職員が定期的に通講し、応急手当や初期対応について学んでいる。他、AED設置施設であり、施設内研修でAED研修会を行い全職員が対応出来るように取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会の避難訓練を年2回以上行う計画を立てている。避難ルートの確認も行き、近隣に在住する職員も駆けつけて避難できる体制を取っています。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライド・プライバシーに関わる事については、考慮時には耳元でそっと声をかけ、不適切用語にならないよう気を付けています。記録等についても保管場所について定め、第三者の目に入らないようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思・希望を聞きながら、出来る限りご要望にそう事が出来るように努めている。説明は、認知症の人でもその人の理解力に合わせた声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入浴したい時間・食事時間をずらしたり、散歩等の外出支援など、利用者自身がしたい希望を把握し、出来る限りその人らしいペースで生活ができる様に配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者にとってのこだわりについて配慮を行っている。(エプロン・服装等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力を生かし調理・片付け等はその時の利用者の気持ちに配慮しながら一緒に行う事ができるように配慮をしている。個々に合わせた食事提供方法を行っています。(食べやすい大きさに工夫、栄養補給剤等)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については記録をつけ把握をし、又、欠食等、普段とは違った様子が見られる場合には記録へ残しスタッフ間で引継ぎを行っている。また補助食品など代替食も用意しその日の献立では食が進まないときには違う食事も提供できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前に口腔ケアを行っている。その他、食事等によって口腔内に食物残渣等が見られる場合には、随時、清潔を保つことができる様に援助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンシートを活用し、個々の間隔に合せ定期的に誘導を行い失禁予防に努めています。失禁等の失敗があったとしても排泄に対する精神的な負担が軽減されるように努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンシートを活用し、排便の把握を行い便秘の方には腹部マッサージや、乳製品等、繊維質の物を多く提供する等、便秘予防を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の希望・了解が得られたタイミングで入浴へお誘いしている。時間や曜日などは特に設定せず希望にあわせて入浴して頂いている。身体確認にも配慮し乾燥予防に入浴剤を利用しており、香りや色も楽しんで頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	光量や室温、湿度などに注意を払い、過ごしやすく安眠しやすい環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報ファイル、基本情報で利用者がどんな薬を服用しているかを把握できるようにしている。服薬マニュアルを作成し、マニュアルに沿って服薬介助を行っています。毎月、計画作成担当者から服薬方法の見直し・確認を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を洗い出し、得意だったことをしていただく事でご本人の意欲を引き出したり、楽しく過ごす事ができる様にしている。他、重度化に伴い、個別ケアにて個々の能力にあわせ支援して行ける様取り組んでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	コロナウイルス感染予防対策のため外出は難しく、個別に少ない時間でもお散歩やドライブへ出かけられるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少、認知症の症状があったとしても、自分でお金を管理し支払うことの大切さを考え、ご家族に対して紛失に対するリスクの説明を行い協力をいただきながら、自分で管理する事ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は自分で電話回線を引いたり、携帯電話を所持したり、ホームのコードレス電話を自由に使用していただいたりして、外部との連絡がとりやすいようにしている。携帯電話を所持している方は、好きな時間にご家族に電話をかけてます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者同士で思い出を共有した写真を掲示したり、季節を感じるができる様なお花やクリスマスツリーなどの飾りつけを行い、家庭的な雰囲気が醸し出されるように配慮している。本人、ご家族と相談し、担当者を中心に模様替えを行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係や、その人の性格なども見ながら、リビングとサブリビングを使い分けながら、工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の打ち合わせの段階において、本人が使い慣れたものを持ち込む利点について説明し、協力をお願いしている。また入居後もご家族に定期的に相談し、ご本人の反応を見ながら、少しずつ居心地良い空間になるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計時より建物内におけるトイレや手洗いの高さに配慮し手すりも随所に設置している。又、安全衛生会議の中でリスクになる箇所はないか確認し手すりを増やしたり、安全が確保できるよう努めています。		